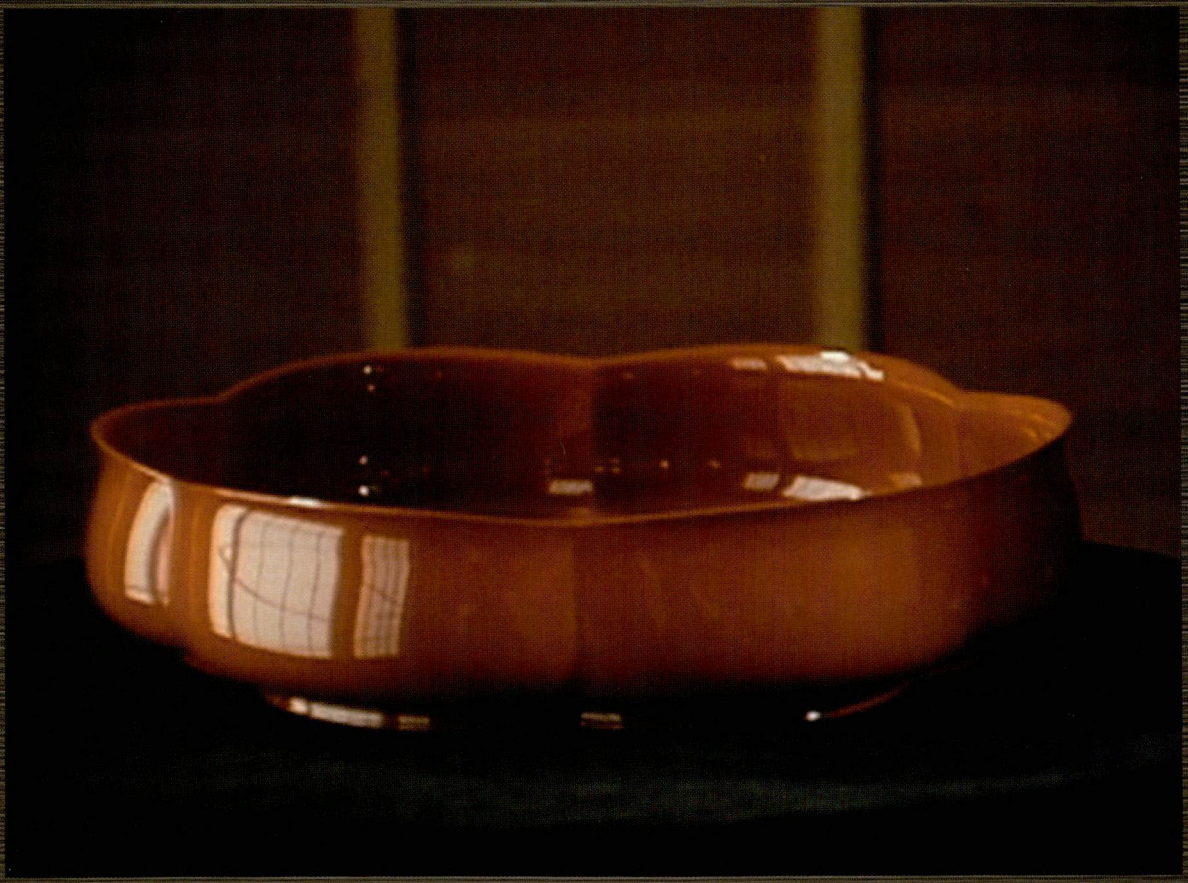
髹漆 ―増村益城のわざ―

昭和57年度 工芸技術記録映画 35ミリ・カラー・32分

企画 文化庁　制作 日経映像

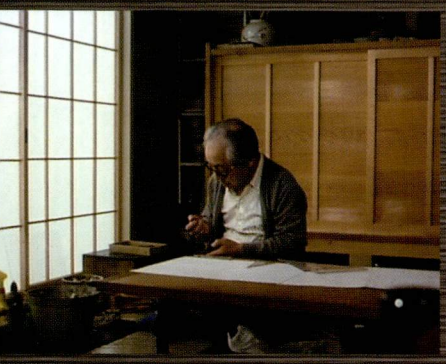
漆は塗料の一種で、木や布、和紙に塗ることによって、美しくて、強靭な器物を生み出します。この漆塗りの技法を髹漆と呼んでいます。

重要無形文化財「髹漆」保持者の増村益城氏の作風はその鋭い造形力にあります。作品「乾漆朱輪花盤」の制作過程を約6ヶ月にわたり忠実に記録しました。漆芸にたずさわる専門家に対する技術資料の提供とともに、一般にも長い歴史の中で培われてきた伝統工芸の継承と創造の何たるかを知らしめる意図のもとに製作されたものです。



プロローグ

漆は塗料の一種で木や布や和紙と一体になることによって強靭な器物を生み出します。



増村 益城氏

重要無形文化財「髹漆」保持者の増村益城氏。増村氏の作風はその鋭い造形力にあります。

原型を作る

乾漆作りは、まず粘土で器物の原型を作りあげることからはじまります。粘土原型で器物の形や線が徹底的に追及されます。

雌型作り

粘土原型に石膏液をふりかけ、器物の雌型が作られます。
金属板を使って器物の形を修正すると、完成された盛器の内側の姿が想像できます。

雄型作り

次に雄型が作られていきます。この雄型によって器物のおおよその形が整います。

和紙貼り

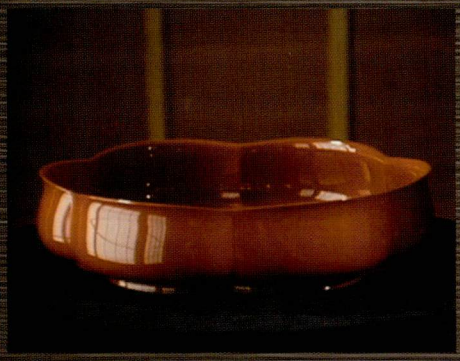
器物の素地（きじ）となる和紙貼り。喰い列を生かしながら 10 枚の紙を入念に貼り重ねていきます。

整形

漆を塗り重ねては砥石や墨で研ぎ出され、器物の形が整えられます。古典技法の縦横の駆使が見事に器物を形どっていきます。

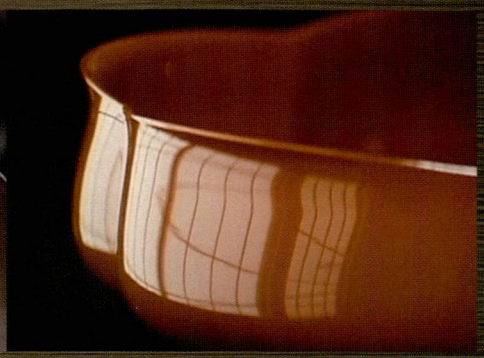
朱漆塗り

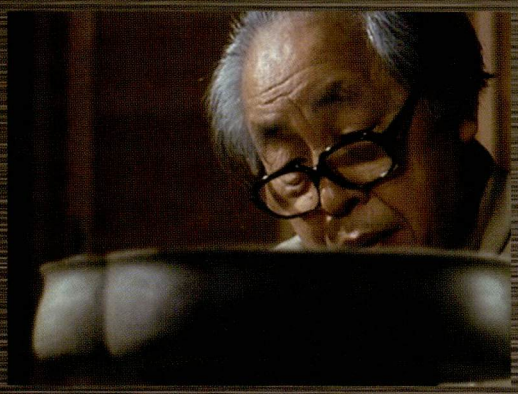
最後に色も鮮やかな朱漆（しゅうるし）が塗られます。琳派の刷毛さばきと称されるほど見事な刷毛さばきによって器物（盛器）の典雅が姿を見せます。



完成

作品名「乾漆朱輪花盤」（かんしつ　しゅりんかばん）
六ヶ月製作期間を要して、作品が完成しました。





増村益城（ますむらましき）

明治 43 年 7 月 1 日	熊本県上益城郡津森村（現益城町）の農家に生まれる。
昭和 5 年 1 月	漆工家辻富太郎氏について漆芸を修行
昭和 7 年 9 月	漆工家赤池友哉氏について髹漆技法を修行
昭和 14 年 5 月	日本漆芸院展に入選 第二席入賞
昭和 15 年 10 月	紀元二千六百年奉祝典に入選 以後文典、日展に九回入選
昭和 30 年 6 月	第一回日本漆芸展にて文部大臣賞受賞
	以後、日本伝統工芸展に出品した「乾漆盛器」「根来盤」
	「髹飾盛器」で大賞を重ねる。
昭和 49 年 11 月	紫綬褒賞受賞
昭和 49 年～ 50 年	ヨーロッパの各国で開催された日本伝統工芸展に作品が
	陳列され、その卓越した造形力が好評を得る。
昭和 53 年 4 月	重要無形文化財「髹漆」の保持者に認定
昭和 55 年 11 月	勲四等旭日小綬賞を受ける。
昭和 56 年 5 月	日本橋三越本店にて古稀記念増村益城髹漆点を開催、好評を得る。
昭和 59 年 9 月～	文化庁企画、伝統工芸記録映画の製作に当り、
58 年 2 月	「乾漆朱輪花盤」を制作する。

《スタッフ》

制作 田島正蔵　脚本・演出 小谷田亘　撮影 浅岡宮吉
照明 水村富雄　編集 井上正司　音楽 牧野由多可
効果 佐藤日出夫　解説 伊藤惣一　現像 東京現像所